

SESSION 2010

**AGREGATION
CONCOURS EXTERNE**

**Section : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES
LANGUE ET CULTURE JAPONAISES**

COMMENTAIRE DE TEXTE EN JAPONAIS

Durée : 7 heures

Documents autorisés : Dictionnaire Kôji-en, Iwanami, 1983, et rééditions; Dictionnaire Taishûkan kango shinjiten, Taishûkan, 2001, et rééditions.

L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel électronique est rigoureusement interdit.

Dans le cas où un(e) candidat(e) repère ce qui lui semble être une erreur d'énoncé, il (elle) le signale très lisiblement sur sa copie, propose la correction et poursuit l'épreuve en conséquence.

De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, il vous est demandé de la (ou les) mentionner explicitement.

NB : Hormis l'en-tête détachable, la copie que vous rendrez ne devra, conformément au principe d'anonymat, comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé comporte notamment la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de signer ou de l'identifier.

Tournez la page S.V.P.

日本語で次のテキストの解説をして下さい。

少子化を反転させることは可能か

未婚化・少子化の要因のまとめ

もう一度、日本で少子化が進んだ要因を復習しておこう。

一つは、経済的要因であり、①結婚や子育てに期待する生活水準が上昇して高止まりしていること、その反面で、②若者が稼ぎ出せると予想する収入水準が低下していることである。

もう一つは、男女交際に関する社会的要因であり、③結婚しなくても男女交際を深めることが可能になったという意識変化、および、④魅力の格差が拡大していることである。

それを反転させるためには、相当の困難が横たわっている。それは、日本の少子化は、①経済・社会、そして男女交際パターンのグローバルな構造変化の中で、②日本固有の文化的要因(パラサイト・シングル現象)が重なって生じたものだからである。グローバルな構造的変化を止めることは不可能に近いし、日本固有の文化的要因を変化させることも難しい。

確かに、結婚したい、子どもをもちたいという若年者が圧倒的多数を占めているという事実は、希望もてる。しかし、日本の少子化の根本要因を考えた場合、彼らの希望を実現できる環境を整えるのは、容易ではない。

若者が稼ぎ出せる収入水準が低下するのは、低成長化、そして、ニューエコノミーの浸透によるもので、男女交際が自由化されるという傾向は、魅力の格差拡大を顕在化させる。そして、日本のパラサイト・シングルという条件、つまり、未婚者は親と同居して結婚を先延ばしにできるという条件は、結婚生活、子育てへの期待水準を高めるし、親と同居しながら恋人としてつき合えるので、恋人ができて、あえて、結婚(同棲)する必要がない。そして、結婚後も、子育てに高い水準を求める傾向が続く一方、ニューエコノミーの影響で収入増加の期待が低下するので、既婚者の出生率も低下する。

そして、この状況下では、男女にミスマッチが生じる。それは、性別役割分業意識が維持されていることによってもたらされる。性別役割分業意識には二つの側面があり、一つは、男性が結婚後の生活を支えるのが当然という経済的役割分業意識、もう一つは、収入の高い男性が女性から「魅力がある」とみなされ、好かれるという「魅力の性差」意識があり、そのため結婚したくてもできない男女間に大きな相違点を生じさせる。将来稼ぎ出す収入が少ないとみなされた男性、および、結婚生活や子育てへの期待水準が高い女性の中で未婚者が増える。